



1_ くまモン登場で多くの人だかりができた商工会館前 2_ 本町通りに並べられた瀬戸物は品揃えも豊富 3_ お目当ての苗木に足を止めて品定めをする買い物客 4_ 夕方の通りには親子連れを中心に人の波ができた 5_ 買い物客には商工会から感謝のくじ引き抽選でもてなされた

春の訪れを告げる「みふね初市」が2月27日と28日の両日、本町通り一帯で開催され、メイン会場の町商工会館前は多くの人でにぎわいました。

上益城郡のトップをきって開かれる名物市は、町商工会(福味総一郎会長)が主催。初日は、御船中高のロボコン戦士が応援にかけつけて、全国レベルのロボット操作を実演しました。さらに、熊本県の人気キャラクターで知られる「くまモン」が初市に登場。御船のヒーロー「まもレンジャー」との共演で、ちびっ子たちの視線を独占して、くまモン体操を来場者と一緒に踊りました。

歩行者天国となった通り400mには、瀬戸物、植木や初市館などの露店が軒を連ねて、二日間で1千人以上が足を運び、昔からずっと愛される伝統市の光景が広がっていました。

編集後記

▼年初めから寒さの厳しい日々が続き、春を待ち遠しく感じている今日この頃です。昨年の3・11の東日本大震災から1年の月日が経ち、改めて一年前の出来事を思い出しました。時間は流れているんですね…。いろんなことを考えさせられ、学ぶことの多い一年でした。震災に関連した励ましのお便りもたくさん届きました。皆さん、「何かできないだろうか」という同じ思いなんですね▼桜の花咲く4月、新しい始まりの予感です。気持ちを新たに前を向いて歩いていきたいですね。

▼東日本大震災の記憶を風化させないようにと、県内広報担当者が合同制作した「防災特集」。市町村の枠を超え、県民約180万人を対象に防災を考えてみました。自ら生きることが「自助」、日頃の地域交流が「共助」と防衛大学の五百旗頭真校長。この言葉を心のどこかに、防災の意識を持ち続けたいものです。大切な人を守るために▼町は中心市街地の整備や憲法づくりを進めています。いずれも、今よりも、これからを見えた一歩です。いよいよ4月。皆さんはどんな一歩を踏みだしますか。

◎

